

# 大正期・昭和初期の東京音楽学校における ショパン作品のエディション受容

多田 純一\*

## 要約

日本において西洋音楽が導入され、ピアノ教育が行われたのは、1879年に音楽取調掛が設置された翌年、1880年からである。日本におけるピアノ教育はショパンの死後30年後に、まさにゼロからはじめられた。すでにヨーロッパではクリンドヴォルスやミクリによって校訂されたものをはじめ様々な版が出版されていた。明治期からそれらの多くの楽譜が、音楽取調掛および、東京音楽学校に受入れられた。明治期に受入れられた楽譜については、すでに調査が終わっている。本論の目的は、大正期、および昭和初期に、東京音楽学校に受入れられた楽譜について調査し、考察することである。

調査により、大正期に受入れられた楽譜は明治期とほぼ同様の傾向を示し、ドイツの楽譜が中心であることが明らかになった。また、ドイツの楽譜に加えて、アメリカへと受入れる範囲が少し広がったことも特徴である。昭和初期にはさらに広がり示し、フランスの楽譜も受入れている。これらの楽譜の受入状況から、海外で学んだ後、東京音楽学校でピアノ教育を行った人々のエディションの選択に対する意識の一面を知ることができる。

キーワード：ショパン、楽譜、受容、大正期、東京音楽学校

2009年10月6日受理（理論）

## 1. はじめに

日本における西洋音楽の受容研究は長い期間に渡ってさまざまに行われ、今もまだ研究は続けられている。ヘルマン・ゴチェフスキによる「私のデータベースは無作為に集めたものだが、それでもタイトル数は数百に上っている。その多くは一九八〇年代以降のものだが、七〇年代以前に書かれたものも少なくない」<sup>1</sup>という報告は、その事実を端的にあらわしている。

さまざまな角度から受容研究が行われる中で、近年、あらゆる角度から細分化された受容研究が行われており、楽譜の受容についても研究されている。明治期のピアノ教育について、どのような教材が使用されていたかについて研究した国府華子による論文は1999年に発表された<sup>2</sup>。また、2005年に長谷川由美子により

ベートーヴェン作品の楽譜出版に関する論文が発表され<sup>3</sup>、長谷川のあとを追う研究として2008年に発表された大城了子による研究がある<sup>4</sup>。これらのことから、長い期間に渡って行われてきた受容研究でありながら、楽譜がどのように受容されたかについての研究はまだはじまったばかりであると言える。

フリデリク・フランチシェク・ショパン Fryderyk Franciszek Chopin (1810-1849) の受容に関連する研究では、岡部玲子によるエディション研究が特に重要である<sup>5</sup>。岡部は、日本の大手楽譜出版社である全音楽譜出版社と音楽之友社による版がPeters版を踏襲した版であるという、長い間指摘されてきた事実を明らかにした。ショパンに関するその他の受容研究では、坂本麻実子による卒業演奏会で取り上げられた作

\*大阪健康福祉短期大学

連絡先：多田純一

〒590-0014 堺市堺区田出井町2-8

大阪健康福祉短期大学 子ども福祉学科

E-mail:op.23.60@samba.ocn.ne.jp

品の頻度とその変遷を明らかにした研究<sup>6</sup>、Susumu Tamura による日本におけるショパン受容の概要と日本人の精神性が述べられた研究<sup>7</sup>、がある。

ショパンの楽譜受容に関する研究については、洋楽受容の中心となる、明治期の音楽取調掛および改変後の東京音楽学校が受入れた楽譜について<sup>8</sup>、すでに調査が終わっている（多田純一、「明治期におけるショパン作品のエディション受容」、『藝術文化研究』、第14号、大阪芸術大学大学院芸術研究科、印刷中）。明治期にはショパンの楽譜は国内版としては出版されおらず、海外で出版された多くの楽譜が受入れられ、筆写することにより使用されていた。本論の目的は、調査が終了している明治期から、国内版の楽譜が出版されるまでの間となる大正期、および昭和初期に、東京音楽学校に受入れられた楽譜について調査し、考察することである。

## 2. ピアノの普及と図書の出版

### 2.1 ピアノの普及と私立学校の急増

安政元年（1854）に日米和親条約により開国され、安政5年（1858）に日米修好通商条約が結ばれたことにより、横浜は開港した。外国人居留地先には多くの外商が住むようになり、クレーン&カイル事務所がピアノの販売を始めるのは明治11年（1878）のことである<sup>9</sup>。その後、明治13年（1880）にはカイル商会と改称し、さらに明治14年（1881）にはドーリング商会となる。明治期中頃までは、まだ国産ピアノが製造されておらず、横浜に店をかまえる輸入楽器商によるピアノが主に使用されていた。明治12年（1879）10月に音楽取調掛が設置され、明治13年（1880）にアメリカ合衆国の教育者である L.W. メーソンが来日し<sup>10</sup>、日本でピアノ教育が本格的に行われるようになったが、音楽取調掛および、東京音楽学校は、ドーリング商会から多くの楽譜や図書、および楽器を購入した。明治33年（1900）、日本楽器製造株式会社により、はじめて国産のピアノが製造され、その年産台数は、明治33年は2台、明治36年は21台であった<sup>11</sup>。明治40年には117台、明治44年には501台というように増加し、オルガンは年産が約1万台にも達していた<sup>12</sup>。これらの台数はすべて日本楽器によるものであるが、明治42年からは西川楽器もピアノの製造をはじめ、大正8年（1919）は両社と併せて895台、大正9年（1920）には1052台と、ついに1000台を超える。それに比べ、

明治42年には両社を併せて1万台を超えていたオルガンの年産台数は、大正期中頃には5000から6000台程度へと落ち込んでいる。これらの台数は、国産ピアノの製造により、大正期はオルガンからピアノへの転換期がはじまった時期であったことを示している<sup>13</sup>。

また、オルガンやピアノが普及するにつれて、音楽を学ぼうとする学生が増え、明治期後半からはいくつもの私立音楽学校が設立された。学校が増えた理由は、洋楽の普及に加え、唱歌教員を養成する機関が必要であったことが大きな要因である。しかしながら大正期には、まだ教員の資格を授与することのできる専門学校としての資格を得ていない場合も多かった。東京音楽大学創立百周年を記念して出版された武石みどり監修の文献では次のように説明されている。

明治三九年に東京音楽院（開設は前年）、明治四〇年に東京女子音楽伝習所（開設は明治三七年）、明治四四年に女子音楽園（明治三七年に女子秋吟会として開設）が私立の音楽学校として認可を受けている。いずれの学校も、東京音楽学校や教員検定試験の予備校とも言える音楽講習所として開設され、その後私立学校としての認可を受けるという経緯で設立された。<sup>14</sup>

予備校としての機能も果たしつつ、多くの私立音楽学校は数多く創設されては淘汰されているが、音楽を学ぶ場そのものが急激に増えていく時代であったことは確かである。

### 2.2 図書の出版

ショパンの作品に関する楽譜の出版は、昭和に入ってからのものであるが、ショパンという音楽家が一般的に認識されてきたことを示すひとつの要素として、大正期にはショパンそのものに対する記述を主とした書物が出版され始めていることが挙げられる。これは明治期には見られなかった現象であり、ショパンだけでなく他の作曲家も同様である。例えばベートーヴェンに関する図書は、大正4年（1915）にロマン・罗兰著、加藤一夫訳の『ベエトオフエン並にミレエ』、大正8年（1919）に久保正夫著『ベートーフェンの一生』が出版され、この2冊が最初期の図書である<sup>15</sup>。ベートーヴェンの図書について研究した樋口眞規子の資料によると、大正期にベートーヴェンに関する図書

は、合計15冊出版されている。ショパンに関する図書について調査した結果、7冊の図書が出版されていたことがわかった。ベートーヴェンに関する図書が出版されてから、7年遅れて、大正11年（1922）から出版がはじまった。

以下に、著者、書名、出版年月、出版者の順に記す<sup>16</sup>。

- 1) ジェームズ・ハネカー著；鈴木賢之進訳、大正11年（1922）11月、『ショパンの生涯』、葡萄樹社。
- 2) モーリッツ・カラソフスキ著；柿沼太郎訳、大正12年（1923）7月、『ショパンの生涯と手紙』、新生社。
- 3) ジャン・クレツェンスキ著；馬場二郎訳、大正13年（1924）1月『ショパンの名曲』、大阪開成館。
- 4) 増澤健美著、大正13年（1924）6月、『ショパン全曲の批判的解説』、新響社。
- 5) ジェームズ・ハネカー著；鈴木賢之進訳、大正13年（1924）7月、『ショパンの藝術』、十字屋楽器店。
- 6) 馬場二郎著、大正13年（1924）9月、『I. ショパンの日記 II. ニーツェの言葉（ワーグネルを想ふ）』、クララ社。
- 7) ジェームズ・ハネカー著；鈴木賢之進訳、大正13年（1924）10月、『ショパンの生涯』、十字屋楽器店。

7冊のうち、1.『ショパンの生涯』、5.『ショパンの藝術』、7.『ショパンの生涯』は、いずれも James Huneker による *Chopin: The Man and His Music* (1900) の翻訳、2.『ショパンの生涯と手紙』は Moritz Karasowski による *Frédéric Chopin; His Life and Letters* (1878) の翻訳、3.『ショパンの名曲』は Jean Kleczynski による *Chopin's Greater Works* (1896) の翻訳である。

一方で、7冊のうち、4.『ショパン全曲の批判的解説』のみが翻訳でなく、日本人によって書かれたショパンの作品の解説書である。op.1 から op.65 までの作品以外にも、多くの遺作まで解説されている。さらに、付録としてショパンの楽譜についての解説や、出版された図書、作品リストなども含まれており、大正期にショパンの楽譜や作品に対して、どのような認識があったのかを知る重要な手がかりとなる図書である。次節

ではこの『ショパン全曲の批判的解説』を概観する。

### 2.3 増澤健美著『ショパン全曲の批判的解説』

前節で紹介した通り、4.『ショパン全曲の批判的解説』は翻訳されたものではなく、日本で初めて出版されたショパン作品の解説書であるが、付録の解説や作品リスト、また巻末に《新しい3つのエチュード》の第1番の自筆譜ファクシミリが添付されているところなど、一見したところ Frederick Niecks の *Frederick Chopin as a Man and Musician*<sup>17</sup> と似ている。この図書は、後に田部節訳述・小山育之進監修により、『フレデリック・ショパン—人および音楽家としての』というタイトルで、昭和41年（1966）全音楽譜出版社から出版された。今日でも参考文献として頻繁に使用されている図書である。増澤は<sup>18</sup>、概ね Niecks やその他の研究者による著書を参考、引用し、まとめている。章立ては一致しておらず、『ショパン全曲の批判的解説』というタイトル通りに作品の解説が全体の約9割を占めているからである。

興味深いのは、Niecks が作品リストの前に「ショパンの作品リストに先立つ所見」‘Remarks Preliminary to the List of Chopin's Works’ を述べているのに対し、増澤は「ショパン作品の版」というショパンの死後出版された楽譜に関する説明を述べていることである。Niecks が書いた所見は、ショパンの作品はフランス、ドイツ、イギリスの3国から出版されていたことや、初版が抱える問題点などについて言及しているのだが、増澤は初版についてはごくわずかししか触れていない。むしろ Niecks や Huneker が言及した、ショパンの死後出版されたさまざまな版についての意見を、翻訳し、まとめ、引用している。「ショパン作品の版」には次のような説明がある。

ボーテ=ボック版はクリンドウォーズの編纂したもので純然たるピアノ曲のみである。可成り實際的の価値あるものであって、ハネカーも之を日常の用に推薦して居る。然し、此版に於いてもクリンドウォーズの記した運指法が完全なるものとは言へない事と、時としてテキストを変更してある事とが缺点と云えば缺点である。シュレジンゲル版はクラックの編纂したもので、多くの注意書きがある事と曲に対する註解がある事とで、初學者用としては便利である。<sup>19</sup>

上記の説明は、Niecks の文章や<sup>20</sup>、Huneker の文章<sup>21</sup>から引用し、まとめたものであると推測される。増澤は、次のようにも述べている。

ペーターズ版は、運指法はクリンドウォーズに基いたもので、怪しい所も相当にあるが、テキストに就いては可成り正確なものである。若干の誤植もあるが、まづ最も完全だと言はれて居るのはブライトコフ＝ヘルテル版十四冊である。之はリスト、ブラームス、バルギール、フランコーム、ライネツケ、ルドルフの六人が編纂したものであつて、管絃樂附の六個の曲も含有せられて居り、歌曲も収容せられ、又ショパンの遺稿も他の版に於けるよりも多く集められて居る。<sup>22</sup>

上記の引用もまた、Niecks の文章を翻訳しながらも、自分の意見として執筆している箇所や、他の文章からの引用を混ぜ合わせていると思われる。Breitkopf & Härtel の版に関する引用と思われる原文は以下の通りであり、ほぼそのままの引用であることがわかる。

*The critically-revised edition published (March, 1878-January, 1880) by Breitkopf and Härtel was edited by Woldemar Bargiel, Johannes Brahms ... and Ernst Rudorff. ... Breitkopf and Härtel's edition is the most complete, containing besides all the pianoforte solo and ensemble works published by composer himself, a greater number of posthumous works (including the songs) than is to be found in any other edition.*<sup>23</sup>

増澤は Herrmann Scholtz 校訂の Peters 版と Klindworth 版、そして Liszt 等によって校訂された Breitkopf & Härtel 版について言及している。Peters 版は明治18年(1885)、音楽取調掛に早く受入れられ、その後も複数に渡って所蔵されているので、現物を確認した可能性は非常に高い。また、Klindworth 版も明治41年(1908)に受入れられているので同様である。しかし、Breitkopf & Härtel 版は音楽取調掛および東京音楽学校には受入れられていない。また、現在 NACSIS Webcat の総合目録データベースや各音楽大

学付属図書館の OPAC を検索しても、この版はどの図書館にも所蔵されておらず、いくつかの図書館には University Music Editions<sup>24</sup> からマイクロ資料として出版された版が所蔵されているのみである。

増澤なりに Niecks や Huneker の文章を読み、ショパンの楽譜の傾向を知ろうとしたのであろうが、あまりにも直接的な翻訳や引用であり、他に言及している多くの版についても、恐らく資料批判することなく引用したと思われる。しかしながら、数多く出版されているショパンの楽譜について、それらがどのような楽譜であるかを知ろうとした姿勢がうかがわれることは重要であると言えよう。次章では、大正期に東京音楽学校に受入れられた楽譜について考察する。

### 3. 大正期および昭和初期の東京音楽学校に受入れられた楽譜

#### 3.1 明治期の音楽取調掛および東京音楽学校に受入れられた楽譜

明治期の音楽取調掛および東京音楽学校に受入れられたショパンの楽譜については、すでに調査が行われているが、調査にあたっては大角欣矢を代表研究者とする『近代日本における音楽専門教育の成立と展開に関する研究』<sup>25</sup>を参考にした。大角が「音楽取調掛時代、及び明治20(1887)年以降の東京音楽学校創設初期の楽譜の所蔵状況と、おおよその受入順序を知ることが可能となった。」<sup>26</sup>と述べたように、大角等の研究により、それまで明確でなかった受入年と受入順序が明らかになった。筆者の研究では、『圖書出納簿』および『楽譜原簿』と『楽譜假名目録』を参考にし<sup>27</sup>、目録カードおよび現物の楽譜を確認し、当時受け入れられた楽譜と、現存している楽譜を明らかにした。この研究により、従来、基礎資料として使用されてきた『音楽取調掛時代(明治13年～明治20年)所蔵目録(1)洋書・楽譜』<sup>28</sup>では皆無とされていたショパンの楽譜を明確にすることができた。

明治期に受入れられた楽譜の傾向は次の通りである。

- ①受入れられた楽譜の多くはドイツで出版された楽譜である。
- ②校訂者による加筆や変更のある版が多い。
- ③多くの楽譜は、出版されてから数年以内のものであり、最新の楽譜が受入れられている。
- ④日本におけるショパンの楽譜受容は、19世紀後

半に出版された楽譜の特徴である、校訂者が自分の解釈を反映させた版を受入れることからはじまっている。

現存している合計32件（ひとつの受入番号に対し、複数冊受入れられている場合があるので、ここでは件と記す）のジャンル別の内訳は、ピアノソロ18、オーケストラ5、オルガン4、ヴァイオリン3、チェロ1、声楽1、である。ショパンが作曲したのはほとんどがピアノ曲のため、ピアノソロの楽譜が多くなるのは言うまでもないが、オルガン用に編曲された楽譜が4冊あるのは明治期の時代背景を物語っている。

また、18件のピアノソロの校訂者別の内訳は、Reinecke 4、Scholtz 4、Klindworth 2、Mikuli 2、Köhler 1、Joseffy 1、Zeckwer 1、不明3である<sup>29</sup>。7名もの校訂者の楽譜が見られるということから、ショパンのというひとりの作曲家に対して、可能な限り幅広く楽譜を受入れようとしている姿勢がうかがわれる。ただし、そのほとんどはドイツの楽譜であり、ショパンの故郷であるポーランドや、人生の半分を過ごしたフランスの楽譜は含まれていない。次節では大正期に受入れられた楽譜の傾向を考察する。

### 3.2 大正期の東京音楽学校に受入れられた楽譜

明治期の調査で使用した資料について、『楽譜原簿』は明治38年まで、『楽譜假名目録』は明治18年までの目録となっているので、大正期以降を調査対象とする本論では使用しない。『楽譜假名目録』の続きとなっている『楽譜目録原簿』<sup>30</sup>の第2巻から第4巻、および『圖書出納簿』<sup>31</sup>を使用した。それぞれの目録からショパン作品に関する楽譜のみを抽出し、文末の表1にまとめた。

表1のうち、大正期に受入れられているのは、受入番号3681「ソナタ op.65」から受入番号4985「ショパン トリオ op.8」までの計32件であり、そのうち、現存しているのは29件である。表1にまとめた楽譜の中から、現存する楽譜について、OPAC、目録カード、および現物を確認し、表2-1にまとめた。ジャンル別の内訳は、ピアノソロ19、チェロ4、ピアノデュオ4、ヴァイオリン1、声楽1、である。明治期との違いは、オーケストラとオルガンの楽譜が皆無であることである。前者の場合は、ショパンはほとんどの作品がピアノソロであり、すでに2曲のコンチェルトのオーケス

トラスコアが明治期に受入れられていることが原因だと思われる。またオルガンについては、ピアノの普及がはじまった時代背景を示していると考えられる。弦楽器および声楽が少数ながらも受入れられている傾向は、明治期と同様である。

19件現存しているピアノソロの校訂者別内訳は、Scholtz 8、Joseffy 6、Reinecke 2、Mikuli 1、Köhler 1、全音<sup>32</sup>、となっている。全音楽譜出版社の版は、楽譜の奥付に昭和28年出版と記載されている。表紙には受入番号四一八六の印鑑が押され、P. SOLO 972と書かれたシールが貼られているのだが、このシールはこの時期の他の楽譜と比べて、新しいものである。恐らく紛失などの理由により、後から補充される形で受入れられたのであろう。前後に受入れられた楽譜から、補充される前の楽譜はJoseffy版ではないかと推測される。明治期と同じように、大正期に受入れられた楽譜も、ドイツの楽譜が中心であり、受入れる楽譜の傾向に大幅な変更は見られない。Scholtz版は明治期には作品集として出版され、受入れられていたが、大正期にはジャンル別に細分化して新たに出版されたものが追加されている。

一方で、明治期との違いを示すのは、明治期には少なかったアメリカの楽譜であるJoseffy版が多く受入れられていることである。ただし、アメリカで出版されている楽譜はJoseffy版のみであり、特にアメリカで出版された楽譜を多く受入れようとする姿勢や傾向は見られない。これまでの考察から、大正期に受入れられた楽譜の傾向は、明治期とほぼ同様であることに加え、新たにアメリカで出版された楽譜が追加されていると言える。

### 3.3 昭和初期の東京音楽学校に受入れられた楽譜

本論では昭和10年度までを考察の対象とした。表1のうち、昭和初期に受入れられている楽譜は、受入番号5385「バラード No.1」から受入番号7051「ソナテス」までの74件であり、そのうち現存しているのは表2-2にまとめた61件である。ジャンル別の内訳は、ヴァイオリン1件を除き、他はすべてピアノソロである。60件のピアノソロの校訂者別内訳は、Kreutzer 50、Cortot 3、Joseffy 1、Liszt 1、Debussy 1、Reinecke 1、Mikuli 1、Scholtz 1、音楽之友社<sup>33</sup>、である。このうち、音楽之友社の版は奥付に昭和33年と書かれたピアノピースであり、前節の全音楽譜出版社のもの

と同様に後から補充されたものかと思われる。表1の受入番号5385から5445までは一括で受入れられたと考えるのが自然であり、Joseffy に関して、紛失した Kreutzer 版を補充したものかと思われる。

この時期の特徴の第1点目は、Kreutzer 版が合計60冊も受入れられていることである。1人の校訂者の楽譜が一度にこれほど多く受入れられた前例はない。これは、当時多くの日本人がドイツに留学し、クロイツァーに師事した事と無関係ではない<sup>34</sup>。山本尚志は次のように述べている。

ベルリンでクロイツァーに学んだ高折宮次は、ヨーロッパの新しいピアノ演奏の潮流を見て日本が取りのこされたことに愕然となった。そこで、帰国後にみずから柔軟で近代的な奏法を指導しただけでなく、新潮流を日本に導入するために、クロイツァーの弟子コハンスキーを一九二五年に東京音楽学校外国人教師に招聘したのだった。<sup>35</sup>

Kreutzer 版は昭和2年（1927）に受入れられているので、コハンスキーもしくはクロイツァーに師事していた誰かによって購入が勧められたのであろう。第2点目の特徴は、明治期、大正期ともに見られなかったフランスの楽譜が受入れられていることである。Debussy 版は昭和6年（1931）に、今日でも親しまれている Cortot 版は、昭和10年（1935）にはじめて受入れられた。この時期には野辺地瓜丸が帰国している。萩谷由喜子は次のように述べている。

野辺地は、ここでコルトーとレヴィからフランス流ピアノリズムの洗礼を受け、一九三〇年に帰国後はショパン演奏で名を馳せる一方、東京音楽学校の教壇に立ち、教育家としても活躍していた。<sup>36</sup>

萩谷の文章からわかるように、1930年にはパリで学んだ日本人が、その技術を日本へ持ち帰り、演奏し、教育に携わったのであった。ちょうどその時期にフランスの楽譜が受入れられていることも、偶然ではないと考えるのが自然である。戦前に出版された楽譜の中で、今日、私たちが目にする楽譜のほとんどがこの時期までに東京音楽学校には所蔵されていたことが明らかになった。

#### 4. まとめ

本論の目的は、大正期、および昭和初期に、東京音楽学校に受入れられた楽譜について調査し、考察することであった。

「2. 大正期におけるピアノの普及と図書の出版」において、明治期と比較したピアノの普及と、新たな傾向として見られた図書の出版についてまとめた。ピアノが普及し、学ぶ場が増えた時代の中で、ショパンに関する7冊の図書は出版された。当時の日本では、自分の言葉でショパンの作品や人生を語るのではなく、翻訳した図書が出版された時代であったが、増澤健美著『ショパン全曲の批判的解説』のように、数多くの楽譜の特徴に興味を示す図書も見られる。

「3. 大正期および昭和初期の東京音楽学校に受け入れられた楽譜」では、『楽譜目録原簿』および『圖書出納簿』により、東京音楽学校に受入れられた楽譜を明らかにし、また、現存している楽譜も明確にした。これにより、大正期は明治期とほぼ同様の傾向を示し、ドイツの楽譜が中心であることが明らかになった。また、ドイツの楽譜に加えて、アメリカへと受入れる範囲が少し広がったことも特徴である。昭和初期にはさらに広がりを見せ、フランスの楽譜も受入れている。後に日本語版として翻訳され、日本のピアノ教育に影響を与える Kreutzer 版や、今日でも広く使用されている Cortot 版の受入年も明確にすることができた。明治期や大正期に見られない、昭和初期に受入れられた楽譜の重要な特徴は、海外で学んだ後、東京音楽学校でピアノ教育を行った人々のエディションの選択に対する意識を示しているところである。

今後の課題は、明治期から昭和初期に受入れられた楽譜が、その後、国内版として出版された楽譜にどのような影響を与え、また、それらの楽譜が今日のエディションの選択にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにすることである。

#### 【謝辞】

資料収集および作成に関しては、東京芸術大学附属図書館の全面的なご協力により実現しました。貴重な資料を閲覧させていただき、お手数をおかけしたにもかかわらず、すべての資料について現物を確認させていただきましたことを、心から感謝申し上げます。大阪芸術大学大学院の芹澤尚子教授、月溪恒子教授からは、ゼミにおいて多くのご指導をいただきました。

また奈良教育大学大学院の安田寛教授、前田則子教授からは様々にアドバイスとご指導をいただきました。常磐大学の岡部玲子准教授からは貴重な資料を提供していただき、多くのご指導をいただきました。矢野孝始氏からは明治期および大正期の学校教育制度についてアドバイスと貴重な資料をいただきました。この場をお借りしまして皆様に感謝申し上げます。大変にありがとうございました。

## 【注】

- 1 ヘルマン・ゴチェフスキ、1998、「日本における洋楽受容研究」、『東洋音楽研究』、第63号、p.131、東洋音楽学会。
- 2 国府華子、1999、「わが国における明治期のピアノ教育－音楽取調掛、東京音楽学校を中心に－」、『音楽教育史研究』、第2号、pp.25-36、音楽教育史学会。
- 3 長谷川由美子、2005、「日本におけるベートーヴェンの楽譜出版－ベートーヴェン受容史の一側面」、『国立音楽大学音楽研究所年報』、第18集、pp.191-220。
- 4 大城了子、2008、「明治期の楽譜受容－ベートーヴェンのピアノ作品を中心に－」、『ムーサ 沖縄県立芸術大学音楽学研究誌』、第9号、pp.71-85。
- 5 岡部玲子、1990、「ショパン作曲バラード第4番のエディシオンの系譜」、『常磐大学短期大学部研究紀要』19号、pp.22-36。1994、「ショパン作曲バラード第4番のエディシオンの系譜 No.2～ペダル記号と運指の数字～（日本におけるショパン受容の研究へ向けて）」、『常磐大学短期大学部研究紀要』23号、pp.57-71。  
および、2001、『パラダイム手法によるショパン《バラード》全4曲のエディション研究』[博士論文]、お茶の水女子大学大学院。
- 6 坂本麻実子、1995、「卒業演奏会とショパン－東京音楽学校の事例からの歴史的考察－」、『桐朋学園大学研究紀要』、第21集、pp.1-18。
- 7 Tamura, Susumu. 2003, "The Reception of Chopin's Music in Japan" in *Chopin and his Work in The Context of Culture Volume 2, Warsaw: Polska Akademia Chopinowska*, pp.467-473, Narodowy Instytut Fryderyka Chopina, Musica Iagellonica.
- 8 音楽取調掛は明治12年（1879）10月に創設されたが、明治18年（1885）2月から12月までの10ヶ月間のみ音楽取調所と改称し、ふたたび音楽取調掛となった。その後明治20年（1887）10月に東京音楽学校に改称、改

変した。

- 9 横浜市歴史博物館、2004、『製造元祖 横浜風琴洋琴ものがたり』、横浜市歴史博物館・横浜開港資料館編集。
- 10 Mason, Luther Whiting (1818-1897) 明治13年（1880）から明治15年（1882）まで音楽取調掛にて主に西洋音楽教育を行った。
- 11 日本楽器製造株式会社、1977、『社史』、p.22、日本楽器。
- 12 前間孝則・岩野裕一、2001、『日本のピアノ100年－ピアノづくりに賭けた人々－』、p.108、草思社。
- 13 年産台数は、前掲の前間・岩野および、『製造元祖 横浜風琴洋琴ものがたり』、『社史』を参考にした。
- 14 武石みどり監修、東京音楽大学創立百周年記念誌刊行委員会編、2007、『音楽教育の礎 鈴木米次郎と東洋音楽学校』、p.100、春秋社。
- 15 樋口真規子、2007、「日本で出版されたベートーヴェンに関する図書 年代順一覧」、『国立音楽大学音楽研究所年報』、第20集、pp.255-284。
- 16 大正期に出版されたショパンに関する図書の調査は、小川昂編、1977『洋楽の本：明治期以降刊行書目』、民主音楽協会民音音楽資料館、1987、『追補第1巻』、および、国立国会図書館のOPACを参考にした。
- 17 Niecks, Frederick., 1902, *Frederick Chopin as a Man and Musician, Vol.1, Vol.2 (3rd ed.)*, Novello.
- 18 増澤健美（1900-1981）音楽評論家。昭和7年から開催されている「日本音楽コンクール」（当時は「音楽コンクール」という名称）の創設者。増澤が考案した「増澤式採点方」はよく知られている。
- 19 増澤、前掲書、pp.487-488。
- 20 Niecks、前掲書、Vol.1, p.275。
- 21 James Huneker., 1916, *Chopin; The Man and His Music*, p.208, Charles Scribner's Sons.
- 22 増澤、前掲書、p.489。
- 23 Niecks、前掲書、Vol.1, p.275。
- 24 *Friedrich Chopin's Werke. Herausgegeben von Woldemar BARGIEL, Johannes BRAHMS, Auguste FRANCHOMME, Franz LISZT, Carl REINECKE, Ernst RUDORFF. Erste kritisch durchgesehene Gesamtausgabe.*, 1878-1880, Breitkopf & Härtel., New York : University Music Editions.
- 25 研究代表者・大角欣矢、2008、『近代日本における音楽専門教育の成立と展開 平成17～19年度科学研究費補助金（基礎研究（B））研究成果報告書』、東京藝

術大学音楽学部楽理科。

26 大角欣矢、2008、「1. 東京音楽学校所蔵図書データベースの概要」、『近代日本における音楽専門教育の成立と展開』、pp.7-9。

27 『圖書出納簿 明治38年度-明治44年度 洋書および楽譜ノ部』および『圖書出納簿 明治45年度以降 洋書および楽譜ノ部』、『高等師範学校附属音楽学校楽譜原簿』（マイクロ形態）、『楽譜假名目録』（『楽譜目録原簿1 自一.-至六九二』）、東京芸術大学附属図書館所蔵。

28 東京芸術大学附属図書館、1969、『音楽取調掛時代（明治13年~明治20年）所蔵目録（1）洋書・楽譜』、東京芸術大学附属図書館。

29 このうち Joseffy による版は、受入年と出版年に明らかな矛盾が生じており、紛失などの理由により、後から補充されたものかと思われる。同じ受入番号を持っているので、補充された年月は不明。

30 『楽譜目録原簿2 自六九三一-至三九三七』、『楽譜目録原簿3 自三九三八-至四九四五』、『楽譜目録原簿4 自四九四六-至六〇九七』、東京芸術大学附属図書館所蔵。

31 『圖書出納簿 明治45年度以降 洋書および楽譜ノ部』、『圖書出納簿 自昭和4年度 至昭和26年度 楽譜太田文庫』、東京芸術大学附属図書館所蔵。

32 この版には校訂者名が記載されておらず、全音楽譜編集部編となっている。

33 この版には校訂者名も編集者名も記載されていない。

34 Leonid Kreutzer (1884-1953) ピアニスト、音楽学者、指揮者。昭和6年(1931)に初来日し、昭和10年(1935)から永住した。東京音楽学校、東京芸術大学および国立音楽大学においてピアノ教育を行った。

35 山本尚志、2006、『レオニード・クロイツァー その生涯と芸術』、p.66、音楽之友社。

36 萩谷由喜子、2005、『田中希代子 夜明けのピアニスト』、p.103、ショパン。文中の「ここで」とは、Ecole Normale de Musique de Paris のこと。

表1 大正期および昭和初期に受入れられた楽譜

|    | 受入番号※1 | 『圖書出納簿』記入楽譜名              | 受入日        | 受入年西暦表示 | 記入備考※2、※3       |
|----|--------|---------------------------|------------|---------|-----------------|
| 1  | 3681   | ソナタ 65                    | 大正3年10月22日 | 1914    | 昭和7年6月10日棄却     |
| 2  | 3807   | ポロニッシェ リーダー               | 〃 3年12月4日  | 1914    |                 |
| 3  | 4183   | マヅルカス                     | 〃 8年9月25日  | 1919    |                 |
| 4  | 4184   | ノクターンス                    | 〃          | 1919    |                 |
| 5  | 4185   | プレリユード                    | 〃          | 1919    |                 |
| 6  | 4186   | ウォルツェスズ                   | 〃          | 1919    |                 |
| 7  | 4187   | ヴェーリアス コンポジションス           | 〃          | 1919    |                 |
| 8  | 4188   | ショパンアルバム                  | 〃          | 1919    |                 |
| 9  | 4318   | コンセルト 作品21                | 〃 9年11月27日 | 1920    |                 |
| 10 | 4319   | ポロネーズ 作品22                | 〃          | 1920    | 昭和25、7、18 除籍決裁済 |
| 11 | 4320   | 〃                         | 〃          | 1920    |                 |
| 12 | 4321   | コンセルト 作品21                | 〃          | 1920    |                 |
| 13 | 4322   | ピアノフォルテウエルケ               | 〃          | 1920    |                 |
| 14 | 4323   | バラードン ウント アンブロンチュ         | 〃          | 1920    |                 |
| 15 | 4324   | ポロネーゼン                    | 〃          | 1920    |                 |
| 16 | 4325   | マヅルカス                     | 〃          | 1920    | 昭和31、10、1 決裁毀損拂 |
| 17 | 4326   | スケルツオス                    | 〃          | 1920    |                 |
| 18 | 4327   | ノクチュルノス                   | 〃          | 1920    |                 |
| 19 | 4328   | ワルツエル                     | 〃          | 1920    |                 |
| 20 | 4329   | 〃                         | 〃          | 1920    |                 |
| 21 | 4757   | ロンド イン ツェモール              | 〃 13年9月13日 | 1924    |                 |
| 22 | 4758   | アウスゲウエールテ ピアノフォルテ ウエルケ    | 〃          | 1924    |                 |
| 23 | 4759   | エチューデン                    | 〃          | 1924    | 昭和25、7、19 除籍決裁済 |
| 24 | 4760   | ピアノフォルテウエルケ               | 〃          | 1924    |                 |
| 25 | 4761   | 〃                         | 〃          | 1924    |                 |
| 26 | 4762   | コンプリート ウォークス フォーア ピアノ     | 〃          | 1924    |                 |
| 27 | 4833   | ショパンピアノフォルテアルバム Bd. I. II | 〃 13年9月16日 | 1924    | 昭和25、7、19 除籍決裁済 |
| 28 | 4896   | ショパン フェルシーデネ ウエルケ         | 〃          | 1924    |                 |
| 29 | 4966   | ショパン フェルシーデネ ウエルケ         | 〃          | 1924    |                 |
| 30 | 4967   | ショパン ノクチュルン Bd. 1         | 〃          | 1924    |                 |
| 31 | 4968   | ショパン ノクチュルン Bd. 2         | 〃          | 1924    |                 |
| 32 | 4985   | ショパン トリオ op.8             | 〃          | 1924    | 昭和25、7、19 除籍決裁済 |
| 33 | 5385   | バラード No.1                 | 昭和2年6月10日  | 1927    |                 |
| 34 | 5386   | 〃 No.2                    | 〃          | 1927    |                 |
| 35 | 5387   | 〃 No.3                    | 〃          | 1927    | 欠 P. SOLO 1219  |
| 36 | 5388   | 〃 No.4                    | 〃          | 1927    | 昭和31、10、1 決裁毀損拂 |
| 37 | 5389   | エチューデン op.10 No.1-3       | 〃          | 1927    | 昭和31、10、1 決裁毀損拂 |
| 38 | 5390   | 〃 op.10 No.4-6            | 〃          | 1927    |                 |
| 39 | 5391   | 〃 op.10 No.7-9            | 〃          | 1927    |                 |
| 40 | 5392   | 〃 op.10 No.10-12          | 〃          | 1927    |                 |
| 41 | 5393   | 〃 op.25 No.1-3            | 〃          | 1927    | 昭和57年9月 除籍決裁済   |
| 42 | 5394   | 〃 op.25 No.4-6            | 〃          | 1927    |                 |
| 43 | 5395   | 〃 op.25 No.7-9            | 〃          | 1927    |                 |
| 44 | 5396   | 〃 op.25 No.10-12          | 〃          | 1927    |                 |
| 45 | 5397   | トロワ ヌーヴェル エチュード           | 〃          | 1927    |                 |
| 46 | 5398   | ファンタジー アンブロンチュ            | 〃          | 1927    |                 |
| 47 | 5399   | ノクチュルン op.9 No.1-3        | 〃          | 1927    |                 |
| 48 | 5400   | ドエイ アンブロンチュ               | 〃          | 1927    |                 |
| 49 | 5401   | ノクチュルン op.15 No.1-3       | 〃          | 1927    |                 |
| 50 | 5402   | 〃 op.27 No.1、2            | 〃          | 1927    |                 |
| 51 | 5403   | 〃 op.37 No.1、2            | 〃          | 1927    |                 |
| 52 | 5404   | 〃 op.48 No.1、2            | 〃          | 1927    |                 |
| 53 | 5405   | 〃 op.62 No.1、2            | 〃          | 1927    |                 |
| 54 | 5406   | マヅルカス Heft 1              | 〃          | 1927    |                 |
| 55 | 5407   | 〃 〃 2                     | 〃          | 1927    |                 |
| 56 | 5408   | 〃 〃 3                     | 〃          | 1927    |                 |

|     |      |                        |            |      |                  |
|-----|------|------------------------|------------|------|------------------|
| 57  | 5409 | マヅルカス Heft 4           | 昭和2年6月10日  | 1927 |                  |
| 58  | 5410 | ” ” 5                  | ”          | 1927 |                  |
| 59  | 5411 | ” ” 6                  | ”          | 1927 |                  |
| 60  | 5412 | ” ” 7                  | ”          | 1927 |                  |
| 61  | 5413 | ポロネーズ op26             | ”          | 1927 |                  |
| 62  | 5414 | ” ” 40                 | ”          | 1927 |                  |
| 63  | 5415 | ” ” 44                 | ”          | 1927 |                  |
| 64  | 5416 | ” ” 53                 | ”          | 1927 | 除籍決裁済            |
| 65  | 5417 | ” ” 61                 | ”          | 1927 | 除籍決裁済            |
| 66  | 5418 | ” ” 71                 | ”          | 1927 |                  |
| 67  | 5419 | プレリュード op28 No.1-9     | ”          | 1927 |                  |
| 68  | 5420 | ” ” 28 No.10-14        | ”          | 1927 |                  |
| 69  | 5421 | ” ” 28 No.15-18        | ”          | 1927 |                  |
| 70  | 5422 | ” ” 28 No.19-24        | ”          | 1927 |                  |
| 71  | 5423 | ロンド op.1               | ”          | 1927 |                  |
| 72  | 5424 | ” ” .5                 | ”          | 1927 |                  |
| 73  | 5425 | ” ” .16                | ”          | 1927 |                  |
| 74  | 5426 | クラヴィール ソナタ op.35       | ”          | 1927 |                  |
| 75  | 5427 | ” ” op.58              | ”          | 1927 |                  |
| 76  | 5428 | スケルツォ ” 20             | ”          | 1927 |                  |
| 77  | 5429 | ” ” 31                 | ”          | 1927 |                  |
| 78  | 5430 | ” ” 39                 | ”          | 1927 | 昭和、25、7、19 除籍決裁済 |
| 79  | 5431 | ” ” 54                 | ”          | 1927 |                  |
| 80  | 5432 | グランド ヴァルス プリラント op18   | ”          | 1927 |                  |
| 81  | 5433 | ” ” ” 34               | ”          | 1927 |                  |
| 82  | 5434 | ” ” ” 42               | ”          | 1927 |                  |
| 83  | 5435 | ヴァルス op 34             | ”          | 1927 |                  |
| 84  | 5436 | ” ” op.64 No.1         | ”          | 1927 |                  |
| 85  | 5437 | ” ” op.64 No.3         | ”          | 1927 |                  |
| 86  | 5438 | ” ” op.69 No.1         | ”          | 1927 |                  |
| 87  | 5439 | ” ” op.70 No.1         | ”          | 1927 |                  |
| 88  | 5440 | ” ” op.70 No.3         | ”          | 1927 |                  |
| 89  | 5441 | アレグロ ド コンチェルト op.46    | ”          | 1927 |                  |
| 90  | 5442 | ベルシェーズ ” 57            | ”          | 1927 |                  |
| 91  | 5443 | ボレロ タランテル ” 19、43      | ”          | 1927 |                  |
| 92  | 5444 | ファンタジー ” 49            | ”          | 1927 |                  |
| 93  | 5445 | ヴァリアシオンプリヤント ” 12      | ”          | 1927 |                  |
| 94  | 5629 | ショパンノクターン              | 昭和3年7月10日  | 1928 |                  |
| 95  | 5667 | ショパンリスト六つのシャンポロネーズ     | 昭和3年9月10日  | 1928 |                  |
| 96  | 5984 | ショパン アウエル ノクターン        | 昭和4年8月10日  | 1929 | 欠 V.P 649        |
| 97  | 6443 | バラードとアンプロンティユ (ドビュッシー) | 昭和6年5月23日  | 1931 | 昭和、25、7、19 除籍決裁済 |
| 98  | 6444 | エチュード                  | ”          | 1931 |                  |
| 99  | 6445 | プレリュードとロンド             | ”          | 1931 |                  |
| 100 | 6446 | ワルツ作品                  | ”          | 1931 |                  |
| 101 | 6967 | ショパンソナテス コルト           | 昭和9年10月16日 | 1934 |                  |
| 102 | 6968 | ショパンエチューデス ”           | ”          | 1934 | 昭和、25、7、19 除籍決裁済 |
| 103 | 6969 | ショパンエチューデス ”           | ”          | 1934 | 昭和、25、7、19 除籍決裁済 |
| 104 | 7049 | 12ステューデス ショパン コルト      | 昭和10年4月2日  | 1935 |                  |
| 105 | 7050 | 24プレリューデス ”            | ”          | 1935 | 昭和、25、7、19 除籍決裁済 |
| 106 | 7051 | ソナテス ”                 | ”          | 1935 |                  |

※1 受入番号は『図書出納簿』『楽譜目録原簿』共に同じである。

※2 備考欄に関しては印鑑に日付が付け足す形式で記載されている場合不鮮明な事も多く、明確に判読できた文章を掲載した。

※3 備考欄に「除籍」を意味する事が書かれている場合でも、その受入番号の楽譜のすべてを除籍している場合と、一部現存している場合がある。

表1において備考に表記がありながら、表2に楽譜が含まれている場合には、以上の理由によるものである。

表2-1 大正期に受入れられ、現存する楽譜

| 受入番号 | 請求記号                  | タイトル  | 出版地          | 出版社                | 受入年※1 | 出版年※2     |
|------|-----------------------|---|--------------|--------------------|-------|-----------|
| 3681 | CELL<br>225/1-2/2     | Sonate für Pianoforte und Violoncello von Fr. Chopin. Op.65. Kritisch revidierte Ausgabe von M. BALAKIREW. Polonaise, op.3 herausgegeben von Fr. Grützmacher.                               | Leipzig      | C.F.Peters         | 1914  | 1904-1908 |
| 3807 | V.SOLO<br>374         | Polnische Lieder componirt für eine Singstimme mit Begleitung des Pianoforte von Fr. Chopin. Englische Uebersetzung von F. W. ROSIER.   | Leipzig      | J. Schuberth & Co  | 1914  | 1880-1885 |
| 4183 | P.SOLO<br>969         | Frédéric Chopin complete works for the pianoforte. Book Two Mazurkas. Newly edited, revised and fingered by RAFAEL JOSEFFY. With a prefatory note by JAMES HUNEKER.                         | New York     | G.Schirmer         | 1919  | 1915-1918 |
| 4184 | C21/C54<br>9/5b-4     | Frédéric Chopin complete works for the pianoforte. Book Four Nocturns. Newly edited, revised and fingered by RAFAEL JOSEFFY. With a prefatory note by JAMES HUNEKER.                        | New York     | G.Schirmer         | 1919  | 1915-1918 |
| 4185 | C21/C54<br>9/5b-9     | Frédéric Chopin complete works for the pianoforte. Book Nine Preludes. Newly edited, revised and fingered by RAFAEL JOSEFFY. With a prefatory note by JAMES HUNEKER.                        | New York     | G.Schirmer         | 1919  | 1915-1918 |
| 4186 | P.SOLO<br>972         | Chopin Walzer. ショパンワルツ集※3   | 東京           | 全音楽譜出版社            | 1919  | 1953※3    |
| 4187 | C21/C54<br>9/5b-12a   | Frédéric Chopin complete works for the pianoforte. Book Twelve Various Compositions. Newly edited, revised and fingered by RAFAEL JOSEFFY. With a prefatory note by JAMES HUNEKER.          | New York     | G.Schirmer         | 1919  | 1915-1918 |
| 4188 | P.SOLO<br>974         | Chopin-Album. A collection of thirty-two favorite compositions by Frédéric Chopin. Revised and fingered by RAFAEL JOSEFFY.  | New York     | G.Schirmer         | 1919  | 1915-1918 |
| 4318 | C23/C54<br>9/1-2      | Concert für Pianoforte von F. Chopin. Op.21. Mit fingersatz, Phrasierungsergänzungen und zweitem Pianoforte von Ed. MERTKE.   | Leipzig      | Steingraber Verlag | 1920  | 1886-1891 |
| 4320 | C23/C54<br>9/2        | Polonaise brillante précédée d'un Andante spianato pour Piano avec Orchestre par Fr. Chopin op. 22. Mit Begleitung eines zweiten Pianoforte herausgegeben von Ed. Mertke                    | Leipzig      | Steingraber Verlag | 1920  | 1886-1891 |
| 4321 | C23/C54<br>9/1-2a     | Concert für Pianoforte von F. Chopin. Op.21. Mit fingersatz, Phrasierungsergänzungen und zweitem Pianoforte von Ed. MERTKE.   | Leipzig      | Steingraber Verlag | 1920  | 1886-1891 |
| 4322 | P.SOLO<br>1025        | Pianoforte-Werke von F.CHOPIN. Neue revidierte Ausgabe, mit Fingersatz zum Gebrauch im Conservatorium der Musik zu Leipzig versehen von CARL REINECKE. Siebenter Band. Rondos und Scherzos. | Leipzig      | Breitkopf & Härtel | 1920  | 1880-1885 |
| 4323 | P.SOLO<br>1026        | Balladen und Impromptu von Fr.Chopin. Kritisch revidiert und mit fingersatz versehen von Herrmann Scholtz.  | Leipzig      | C.F.Peters         | 1920  | 1904-1907 |
| 4324 | P.SOLO<br>1027        | Polonaisen von Fr.Chopin. Kritisch revidiert und mit fingersatz versehen von Herrmann Scholtz.  | Leipzig      | C.F.Peters         | 1920  | 1904-1907 |
| 4326 | C21/C54<br>9/6a-6     | Scherzos und Fmoll-Fantasie von Fr.Chopin. Kritisch revidiert und mit fingersatz versehen von Herrmann Scholtz.   | Leipzig      | C.F.Peters         | 1920  | 1904-1907 |
| 4327 | C21/C54<br>9/6a-4     | Nocturnes von Fr.Chopin. Kritisch revidiert und mit fingersatz versehen von Herrmann Scholtz.   | Leipzig      | C.F.Peters         | 1920  | 1904-1907 |
| 4328 | P.SOLO<br>1031        | Walzer von Fr.Chopin. Kritisch revidiert und mit fingersatz versehen von Herrmann Scholtz.  | Leipzig      | C.F.Peters         | 1920  | 1904-1907 |
| 4329 | P.SOLO<br>1032        | Walzer von Fr.Chopin. Kritisch revidiert und mit fingersatz versehen von Herrmann Scholtz.  | Leipzig      | C.F.Peters         | 1920  | 1904-1907 |
| 4757 | P.DUO<br>207/1-2/2    | Chopin, Rondo in C dur für 2 Klaviere zu 4 Händen op.73. (Krause)   | Leipzig      | Breitkopf & Härtel | 1924  | 1880-1885 |
| 4758 | C21/C54<br>9/6b       | Fr.Chopin's Ausgewählte Pianoforte-Werke. Kritisch revidiert und mit fingersatz versehen von Herrmann Scholtz.  | Leipzig      | C.F.Peters         | 1924  | 不明※4      |
| 4759 | C21/C54<br>9/6a-7     | Etüden von Fr.Chopin. Kritisch revidiert und mit fingersatz versehen von Herrmann Scholtz.  | Leipzig      | C.F.Peters         | 1924  | 1904-1907 |
| 4760 | C21/C54<br>9/7a       | Pianoforte-Werke von F.CHOPIN. Neue revidierte Ausgabe, mit Fingersatz zum Gebrauch im Conservatorium der Musik zu Leipzig versehen von CARL REINECKE. Ergänzungsband.                      | Leipzig      | Breitkopf & Härtel | 1924  | 1880-1885 |
| 4761 | C21/C54<br>9/12       | Fr. Chopin's Pianoforte Werke revidiert und mit Fingersatz versehen von Carl Mikuli. Band.10, Scherzos.   | Leipzig      | Fr. Kistner        | 1924  | 1879      |
| 4762 | C21/C54<br>9/5b-10,12 | Chopin's Complete Works for the Piano. Newly edited, revised and fingered by Rafael Joseffy, with a prefatory note by James Hunecker. Book Ten Rondos. Book Twelve Various Compositions.    | New York     | G.Schirmer         | 1924  | 1915-1918 |
| 4833 | P.SOLO<br>1145/2/2    | Collection Litoff. Chopin-Album PIÈCES CÉLÈBRES pour Piano de FR. CHOPIN. Revues et doigtées par LOUIS KÖHLER.  | Braunschweig | H.Litoff's Verlag  | 1924  | 1880-1885 |
| 4896 | V.P 482<br>/1-2/2     | Collection Litoff. Compositions Diverses de FR. CHOPIN. Transcrites pour Violon & Piano par A. Schulz. Flûte & Piano par O. Standke.  | Braunschweig | H.Litoff's Verlag  | 1924  | 1880-1885 |
| 4966 | CELL<br>341/1-2/2     | Collection Litoff. Compositions Diverses de FR. CHOPIN. Transcrites pour Violoncelle et Piano par Leopold Grützmacher.  | Braunschweig | H.Litoff's Verlag  | 1924  | 1880-1885 |
| 4967 | CELL<br>342/1-2/2     | Collection Litoff. Nocturnes de FR. CHOPIN. Transcrites pour Violoncelle et Piano par Leopold Grützmacher. Vol. I.  | Braunschweig | H.Litoff's Verlag  | 1924  | 1880-1885 |
| 4968 | CELL<br>343/1-2/2     | Collection Litoff. Nocturnes de FR. CHOPIN. Transcrites pour Violoncelle et Piano par Leopold Grützmacher. Vol. II.   | Braunschweig | H.Litoff's Verlag  | 1924  | 1880-1885 |

※1 受入年は表1「受入年西暦表示」から転載した。

※2 出版年はJózef Michał Chomiński; Teresa Dalila Turloによるカタログ、およびHofmeister Monatsberichteを参考にした。

※3 恐らく紛失などの理由により、同じジャンルの楽譜を後から補充する形で受入れたものかと思われる。

※4 カタログその他により調査したが、具体的な出版年を明らかにすることができなかった。

表2-2 昭和初期に受入れられ、現存する楽譜

| 受入番号 | 請求記号              | タイトル   | 出版地    | 出版社      | 受入年※1 | 出版年※2 |
|------|-------------------|--|--------|----------|-------|-------|
| 5386 | C21/C54<br>9/4-1  | Ballade Nr. 2 F-Dur Op. 38 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5390 | C21/C54<br>9/4-2  | Etüden, Cis-Moll/Ges-Dur/Es-Moll Op. 10, Nr. 4-6 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5391 | C21/C54<br>9/4-3  | Etüden, C-Dur/F-Dur/F-Moll Op. 10, Nr. 7-9 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5392 | C21/C54<br>9/4-4  | Etüden, As-Dur/Es-Dur/C-Moll Op. 10, Nr. 10-12 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5394 | C21/C54<br>9/4-5  | Etüden, A-Moll/E-Moll/Gis-Moll Op. 25, Nr. 4-6 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5395 | C21/C54<br>9/4-6  | Etüden, Cis-Moll/Des-Dur/Ges-Dur Op. 25, Nr. 7-9 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5396 | C21/C54<br>9/4-7  | Etüden, H-Moll/A-Moll/C-Moll Op. 25, Nr. 10-12 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5397 | C21/C54<br>9/4-8  | Drei neue Etüden, F-Moll/As-Dur/Des-Dur / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5398 | C21/C54<br>9/4-10 | Fantasie-Improptu Op. 66 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5399 | C21/C54<br>9/4-11 | Nocturnes Nr. 1 Op. 9 Nr. 1, B-Moll, Nr. 2 Op. 9 Nr. 2, Es-Dur, Nr. 3 Op. 9 Nr. 3, H-Dur / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5400 | C21/C54<br>9-4/9  | 3 Impromptus : Nr. 1 As-Dur Op. 29, Nr. 2 Fis-Dur Op. 36, Nr. 3 Ges-Dur Op. 51 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5401 | C21/C54<br>9/4-12 | Nocturnes Nr. 4 Op. 15, F-Dur, Nr. 5 Op. 15 Nr. 2, Fis-Dur, Nr. 6 Op. 15 Nr. 1, G-Moll / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5402 | C21/C54<br>9/4-13 | Nocturnes Nr. 7 Op. 27 Nr. 1, Cis-Moll, Nr. 8 Op. 27, Nr. 2, Des-Dur, Nr. 9 Op. 32 Nr. 1, H-Dur, Nr. 10 Op. 32 Nr. 2, As-Dur / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.    | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5403 | C21/C54<br>9/4-14 | Nocturnes Nr. 11 Op. 37 Nr. 1, G-Moll, Nr. 12 Op. 37, Nr. 2, G-Dur / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5404 | C21/C54<br>9/4-15 | Nocturnes Nr. 13 Op. 48 Nr. 1, C-Moll, Nr. 14 Op. 48, Nr. 2, Fis-Moll, Nr. 15 Op. 55 Nr. 1, F-Moll, Nr. 16 Op. 55 Nr. 2, Es-Dur / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer. | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5405 | C21/C54<br>9/4-16 | Nocturnes Nr. 17 Op. 62 Nr. 1, H-Dur, Nr. 18 Op. 62, Nr. 2, E-Dur, Nr. 19 Op. 72, E-Moll / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5406 | C21/C54<br>9/4-17 | Mazurkas Heft 1 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5407 | C21/C54<br>9/4-18 | Mazurkas Heft 2 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5408 | C21/C54<br>9/4-19 | Mazurkas Heft 3 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5409 | C21/C54<br>9/4-20 | Mazurkas Heft 4 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5410 | C21/C54<br>9/4-21 | Mazurkas Heft 5 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5411 | C21/C54<br>9/4-22 | Mazurkas Heft 6 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5412 | C21/C54<br>9/4-23 | Mazurkas Heft 7 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5413 | C21/C54<br>9/4-24 | Polonaisen Cis-Moll Op. 26 Nr. 1, Es-Moll Op. 26 Nr. 2 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5414 | C21/C54<br>9/4-25 | Polonaisen A-Dur Op. 40 Nr. 1, C-Moll Op. 40 Nr. 2 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5415 | C21/C54<br>9/4-26 | Polonaisen Fis-Moll, Op. 44 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5418 | C21/C54<br>9/4-27 | Polonaisen D-Moll Op. 71 Nr. 1, B-Dur Op. 71 Nr. 2, F-Moll Op. 71 Nr. 3 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5419 | C21/C54<br>9/4-28 | Préludes op. 28 Nr. 1-9 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5420 | C21/C54<br>9/4-29 | Préludes op. 28 Nr. 10-14 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5421 | C21/C54<br>9/4-30 | Préludes op. 28 Nr. 15-18 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5422 | C21/C54<br>9/4-31 | Préludes op. 28 Nr. 19-24 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5423 | C21/C54<br>9/4-32 | Rondo C-Moll, Op. 1 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |
| 5424 | C21/C54<br>9/4-33 | Rondo à la mazur Op. 5 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin | Ullstein | 1927  | 1924  |

|      |                    |   |          |                    |      |           |
|------|--------------------|---|----------|--------------------|------|-----------|
| 5425 | C21/C54<br>9/4-34  | Rondo C-Moll, Op. 16 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin   | Ullstein           | 1927 | 1924      |
| 5426 | C21/C54<br>9/4-35  | Sonate B-Moll Op. 35 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin   | Ullstein           | 1927 | 1924      |
| 5427 | C21/C54<br>9/4-36  | Sonate H-Moll Op. 58 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin   | Ullstein           | 1927 | 1924      |
| 5428 | C21/C54<br>9/4-37  | Scherzo Nr. 1 H-Moll Op. 20 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin   | Ullstein           | 1927 | 1924      |
| 5429 | P.SOLO<br>1250     | PIANO PIECES スケルツォ※3  | 東京       | 音楽之友社              | 1927 | 1958※3    |
| 5431 | C21/C54<br>9/4-38  | Scherzo Nr. 4 E-Dur Op. 54 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin   | Ullstein           | 1927 | 1924      |
| 5432 | C21/C54<br>9/4-39  | Grande valse brillante Op. 18 Es-Dur / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin   | Ullstein           | 1927 | 1924      |
| 5433 | C21/C54<br>9/4-40  | Valse brillante As-Dur Op. 34, Nr. 1 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin   | Ullstein           | 1927 | 1924      |
| 5434 | C21/C54<br>9/4-42  | Grande Valse Op. 42 As-Dur / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer .  | Berlin   | Ullstein           | 1927 | 1924      |
| 5435 | C21/C54<br>9/4-41  | Walzer A-Moll Op. 34 Nr. 2, F-Dur Op. 34 Nr. 3 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin   | Ullstein           | 1927 | 1924      |
| 5436 | C21/C54<br>9/4-43  | Walzer Des-Dur Op. 64 Nr. 1, Cis-moll Op. 64 Nr. 2 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin   | Ullstein           | 1927 | 1924      |
| 5437 | C21/C54<br>9/4-44  | Walzer As-Dur Op. 64 Nr. 3 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin   | Ullstein           | 1927 | 1924      |
| 5438 | C21/C54<br>9/4-45  | Walzer As-Dur Op. 69 Nr. 1, H-moll Op. 69 Nr. 2 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin   | Ullstein           | 1927 | 1924      |
| 5439 | C21/C54<br>9/4-46  | Walzer Ges-Dur Op. 70 Nr. 1, F-moll Op. 70 Nr. 2 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin   | Ullstein           | 1927 | 1924      |
| 5440 | C21/C54<br>9/4-47  | Walzer Des-Dur Op. 70 Nr. 3, E-Moll Op. Posth. / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin   | Ullstein           | 1927 | 1924      |
| 5441 | C21/C54<br>9/4-48  | Allegro de concert Op. 46 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.  | Berlin   | Ullstein           | 1927 | 1924      |
| 5443 | P.SOLO<br>1264     | Frédéric Chopin works for the pianoforte. Miscellaneous compositions. Revised and fingered by RAFAEL JOSEFFY. ※4  | New York | G.Schirmer         | 1927 | 1915-1918 |
| 5444 | C21/C54<br>9/4-49  | Fantasie F-moll Op. 49 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin   | Ullstein           | 1927 | 1924      |
| 5445 | C21/C54<br>9/4-50  | Variations brillantes Op. 12 / Frédéric Chopin ; Herausgegeben von Leonid Kreutzer.   | Berlin   | Ullstein           | 1927 | 1924      |
| 5629 | V.P 543<br>/1-2/2  | Kompositionen von Fr. Chopin für pianoforte und violine arrangiert von Fr. Hermann. Bd. III. Nocturnes.   | Leipzig  | C.F.Peters         | 1928 | 1880-1885 |
| 5667 | P.SOLO<br>1333     | Fr. Chopin: Six Chants Polonais.  | Berlin   | Schlesinger        | 1928 | 1860-1867 |
| 6443 | C21/C54<br>9-10/1a | Chopin OEuvres complètes pour Piano. Ballades & Impromptus. Révision par Claude Debussy.  | Paris    | Durand             | 1931 | 1915      |
| 6444 | C21/C54<br>9/7-2   | Pianoforte-Werke von F.CHOPIN. Neue revidierte Ausgabe, mit Fingersatz zum Gebrauch im Conservatorium der Musik zu Leipzig versehen von CARL REINECKE. Band II. Etuden. | Leipzig  | Breitkopf & Härtel | 1931 | 1880-1885 |
| 6445 | C21/C54<br>9/5a    | Chopin's Complete Works for the Pianoforte. Preludes and Rondos. Edited and fingered by CARL MIKULI.  | New York | G.Schirmer         | 1931 | 1895      |
| 6446 | P.SOLO<br>1457     | Walzer von Fr.Chopin. Kritisch revidiert und mit fingersatz versehen von Herrmann Scholtz.  | Leipzig  | C.F.Peters         | 1931 | 1904-1907 |
| 6967 | C22/549/<br>1a     | Chopin Sonates op.35 et 58. Edition de Travail par Alfred Cortot.   | Paris    | M. Senart          | 1934 | 1930      |
| 7049 | C21/549/<br>8-3    | Chopin 12 Studies op.25. Studen's edition by Alfred Cortot.   | Paris    | M. Senart          | 1935 | 1917      |
| 7051 | C22/549/<br>1      | Chopin Sonates op.35 et 58. Edition de Travail par Alfred Cortot.   | Paris    | M. Senart          | 1935 | 1930      |

※1 受入年は表1「受入年西暦表示」から転載した。

※2 出版年はJózef Michał Chomiński; Teresa Dalila Turtoによるカタログ、およびHofmeister Monatsberichteを参考にした。

※3 恐らく紛失などの理由により、同じジャンルの楽譜を後から補充する形で受入れたものかと思われる。

※4 同上の理由かと思われるが、前後の楽譜から、※3※4は、共にKreutzer版であったと考えるのが自然である。

# The Reception of Chopin's Edition between the Taishō Era and the Early Shōwa Era in Tokyo Music School

Junichi Tada\*

## Abstract

The aim of this paper is to investigate the editions, which were possessed in the Tokyo music school between the Taishō era and the early Shōwa era.

The Ongaku-Torishirabe-Gakari (The institute for the Investigation of Music) was set up in 1879 by the Meiji government. Piano education began in 1880, about 30 years after Chopin's death. On the other hand, at the same time in Europe, Chopin's works were already available as editions by Klindworth, Mikuli and others. The Ongaku-Torishirabe-Gakari possessed various editions from 1885. In the Meiji era, most of those editions were German editions.

Investigations have made it clear that the editions possessed in the Tokyo music school in the Taishō era have a similar tendency with the ones in the Meiji era. In addition, they possessed the editions published in the United States. The French editions were also introduced in the early Shōwa era.

We can find out an outline of the Tokyo music school piano teachers' perception by examining what editions they chose after they learned overseas.

Keywords: Chopin, edition, reception, the Taishō era, Tokyo music school

---

\*Osaka College of Social Health and Welfare  
Contact Address:  
〒590-0014 8-2 Tadei-Cho, Sakai-Ku, Sakai City, Osaka  
Osaka College of Social Health and Welfare  
Department of Child Care and Education  
E-mail : op.23.60@samba.ocn.ne.jp